

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	有限会社ケアアンドケイ		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502405-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、入居者個々が自分のペースで生活出来る様に食事や入浴、入床、起床時間は決めておらず本人と話し合いながら決め、出来るだけグループホーム入居以前の生活パターンを崩さない様に心掛けている。又、ゆったりとした共有スペース・廊下と、ひとり一人思いの時間が過ごせる事が出来るよう配慮されていたり、手すりや電気のスイッチの位置が低めに設置されている事でどの入居者も安全に移動や生活出来る環境になっている。日々の生活の中で特別にレクリエーションの時間は設定せずに、家事や裁縫等個々に好まれる活動を通して残っている機能の維持、向上出来る様に援助を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム こもれび」は閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。建物は専門家の意見を参考に、プライバシーへの配慮や快適さを重視した造りになっている。共用空間は広々しており、中庭の吹き抜けからの採光で心地よく開放感もある。開設11年が経過し、町内会とは相互の行事を通して交流する機会を継続して行っている。隣接する同一法人のグループホームとは行事や運営推進会議を合同で行い、運営推進会議には勉強会も取り入れている。また災害時の協力体制も整備している。昨年就任した管理者は、運営者と一体になって職員の資質向上に熱心に取り組んでいる。法人の全事業所合同研修の参加や年間研修で3か月毎に学んだ内容の振り返りを行い、理解を深めながら実践に繋げている。職員の「ケアプラン評価」をもとにモニタリングを行い、毎月介護計画を更新して家族の同意を得ている。利用者が選べるように提案して外出を支援したり、会話や利用者の様子を観察して理念を意識しながら個人のペースに沿って対応している。隣接するグループホームと毎月「ずらん会」を行い、おやつ作り、ドックボランティア来訪で犬との触れ合い、外食、外出行事など多彩な計画で、利用者間の交流が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念はユニット内の目につきやすい場所に開示すると共に、ケア方法や業務内容等で迷いが生じた際には、全職員で理念を確認して対応方法の再検討をして実践している	法人共通の理念にある地域密着型サービスの内容に沿ってケア理念を作成し、「その人らしい生活」「その方の持っている力」を意識してケアを行っている。次年度の事業所目標づくりの際にケア理念を振り返り確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域の方と顔を合わせた際には、挨拶をする事や町内会の資源回収の協力、町内行事の参加をして地域との付き合いを継続していける様うにしている。	利用者は町内会のお祭りなどに参加している。事業所の花火大会には近所の子供も多数参加し、交流を楽しんでいる。事業所として資源回収や子供110番に加盟して協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の機会に、参加者(近隣住民含む)と認知症に関する意見交換をする機会がある事や今年度は3月に地域包括支援センターの協力のもと近隣住民に向けて認知症サポーター養成講座を事業所内で開催する予定になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を開催して、地域やグループホームの行事の確認や実施報告を行う事や近隣住民が参加しての避難訓練後には運営推進会議時により安全に避難誘導を行う方法に関しての意見交換を行っている。	同一法人グループホームと合同で会議を開催し、災害対策の議題には消防署員の参加も得ている。感染症の情報交換や勉強会も行っている。家族の参加が少ない会議もあり、会議案内の際に、テーマについての意見収集も考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オムツサービスの利用や介護保険の更新に関する手続きで不明な点がある際は、直接窓口に行き確認をする事で協力関係を気づけるように働きかけている。	書類提出や実施指導などで不明な点を確認し、運営に反映させている。地域包括支援センター職員の協力を得て、住民を対象にした「認知症サポーター養成講座」を事業所で行う予定でいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束に関する勉強会を行うと共に、目につきやすい場所に身体拘束禁止に関する資料を掲示している。又、日頃の声掛け方法や対応方法の中で入居者の行動を制限するような事は無いが、日頃行っているケア方法で疑問に思っている事に関して話し合いをする機会を定期的に設けている。	各ユニットの事務所に「禁止の対象となる具体的な行為」の11項目を掲示し、また勉強会の中で「あな埋め式」にして内容を正しく理解している。勤務で研修に参加できない職員には個別に伝達して内容の共有化を図っている。日中は玄関を開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関する資料を目につきやすい所に掲示すると共に年2回勉強会を開催する事で虐待に関する理解を深めると共に、日頃より職員同士意見を言い合える関係を作る事で虐待防止に努めている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の中で日常生活自立支援事業や成年後見制度、権利擁護に関してわからない事がある際は、随時調べ全職員に伝えていく事で職員全体の知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を行う際に本人や家族と話し合いを重ね不安や疑問点が無いか確認を行った上で契約を行っている。入居後に契約内容に疑問が聞かれる際には、すぐに対応を行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見箱を設置すると共に面会時に家族の方に意見や要望を聞く機会を設ける事や本人とは日常の会話の中で不満や要望が無いか確認をしている。又、意見や要望がある際には、職員全員で対応策を検討して改善に向けての取り組みをすぐに実践できるようにしている。	毎月、担当職員が利用者の様子をお便りで報告している。家族の来訪時にケアについて状況を説明し意向を聞いている。「連絡ノート」で意見などを把握しているが、更に個人毎に記録化し、些細な思いも把握できるように検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とは話しを行いやすい関係作りを行い、職員個々の考えている事や提案を聞く事できるようにしている。職員の意見や提案に関しては、管理職で話し合いをする事やカンファレンス時の業務改善の中で全職員で検討を行い、共通理解をしたうえで改善を図っている。	法人の全事業所合同の会議で検討した内容をカンファレンスに諮り、職員の意見交換を参考に業務などを改善している。職員は行事や研修などを担当して業務を分担している。日々業務の中で職員の意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度職員個々の努力や実績に応じて入居者の担当や係り配置決め、やりがいや向上心を持って業務に取り組める事やわからない事に関しては、随時管理職や他職員が相談を受け付ける事で働くうえでの不安を軽減できるように努めている。又、資格取得や業務年数に応じて給与水準が上がるような取り組みを今年度より行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に就労期間や実績に合わせて参加する機会を設けている。研修参加後は、研修報告を作成してもらい管理職は、研修で学んだ事を実践でどの様に活かしていくか把握する事で働きながらスキルアップ出来る様な場面提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職は、他グループホームと2ヶ月に一度研修を行う機会を設け、人材育成に関する研修会やリーダーとしての姿勢を話し合いや互いの施設見学を通して、自施設で取り入れられることは取り入れながらサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談の連絡が入った段階で、本人や家族を含めた施設見学の提案や直接家族に会いに行き、本人の安心の確保を行うと共に困っている事や要望を聞きながら受け入れ態勢の確保を行い、本人、家族に伝えていく事で安心して入居が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みがあった際には、本人のみではなく家族と話し合いをする機会を設けている。その際に入居者を一緒に支えていけるように要望や困っている事を聞きながら対応策と一緒に考え信頼関係を築く事が出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人との面会や施設の見学を行う事で、今後生活をしていく中で不安が無いかな確認を行い、対応策を考える事や経済的な負担を減らす事が出来る。場合によっては、市の介護サービスの提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係を築いていけるように日頃より家事活動や個別のレクリエーション、入浴時の何気ない会話から本人の思いを理解出来る様に努めている。又、入居者個々の得意分野で力を発揮してもらえるような場面作りを行い気軽に参加してもらえるように声掛けを工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況や受診結果を逐一手紙や電話で伝えていくと事や、受診の同行をお願いしていく事で情報交換を密に取ることで、本人に対する思いを互いに理解しあいながら共に支える事が出来る様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	学生時代の友人や知人が面会を歓迎すると共に外出の希望がある場合には、本人の歩行状態や日頃の生活の様子を伝えると共に内服薬がある際は、併せて説明を行いなるべく不安を減らしていけるように取り組む事で、関係の継続を図っている。	友人や宗教仲間の来訪があり、居室でゆっくり過ごせるように配慮している。家族の協力を得て、お墓参りや馴染みの美容室に出かけている。職員が同行し、馴染みのスーパーで買い物をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の体操やレクリエーションを通して利用者同士の会話が盛り上がるように支援や会話をする事が困難な入居者に関しては、本人の生活背景を基に職員が会話の橋渡し役を行う事で関わり合い支えられるように支援している。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後に希望があれば広報誌や季節の挨拶状を通して互いの近況を伝え合いながら関係の継続が出来る様に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入床、起床、食事、入浴時間は決めておらず。入居者個々に確認を行い、自ら希望を伝えることが少ない入居者の方に関しては、発言や表情から本人の思いや意向の把握に努めている。	会話や生活の様子を観察し、意向に沿って対応している。アセスメントシートを6か月毎に見直し、情報を蓄積して介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や生活習慣を把握出来る様に、本人や家族にグループホーム入居前の生活の様子や習慣を確認しながら、なるべくこれまでの暮らしの生活リズムを維持できるように努めている。又、本人、家族から得た情報に関しては、生活記録に記載を行い情報の共有に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子、会話、表情、活動を通して入居者個々の思いやADL、残存機能の把握に努めている。内服変更に伴う心身の変化にすぐ気がつけるように、変更内容や副作用、観察のポイントを全職員が理解したうえで変更後の様子は生活記録に記載することで情報を共有しながら現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のカンファレンスで入居者個々の様子や現状に必要なケアの検討を行い実践している。実践後にはモニタリングにてケアの内容(対応時の様子、表情、発語等)評価出しを行っている。その後再度カンファレンスにて全職員で話し合いながら再検討する事でチームとしてケアを実践し入居者個々の思いや希望に添ったケアが出来る様に努めている。	計画作成担当者はアセスメントを随時作成し、担当職員の「ケアプラン評価」をもとに、カンファレンスで意見を交換し、毎月介護計画を更新している。家族に同意も得ている。短期目標に沿って、サービス内容の変化なども介護記録に記載して見直しに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を発語や表情、職員の対応や入居者の反応や状況をわかりやすく具体的に記載する事で職員間で情報の共有が出来る様にする事でケアの振り返りや介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族より認知症の進行に関する不安が聞かれる際には、本人の日頃の様子や家族の希望を記載した手紙を作成し専門の医療機関を受診している。受診後には、医師の指示内容を家族に伝え今後の対応策を家族と一緒に検討している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、床屋、美容室、スーパー、薬局、等の地域資源を継続して活用する事で馴染みの関係作りを行いながら入居者個々に楽しみを持って生活が出来るように努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療に加えて、本人の既往に合わせて専門の医療機関を継続して受診することで情報の共有を行い関係を保てるように努めている。又、本人や家族から受診先の希望がある際には、訪問診療医に相談し、紹介状を書いてもらい受診することが出来る。	殆どの利用者は協力病院の訪問診療を受けている。専門的な他科受診には職員が同行し、必要な内容は家族に報告している。「受診経過表」に個別に記録して受診内容を把握している。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問診療や訪問看護にて入居者の体調の変化を伝えている。又、受診内容を随時FAXする事や健康管理記録への記載を通して情報共有に努めている。又、急変時には電話にて連絡を行い、対応や受診に関する相談、指示を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、出来るだけ面会に行き安心して治療に励めるようにすると共に、面会時やムンテラの際に医療関係者との情報の共有を図り、事業所内で対応可能な段階で早期に退院が出来るように支援している。又、医療機関のみではなく家族や本人の意思を尊重できるよう意見交換も行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約をする際には、重度化に関してグループホームで出来る事を説明すると共に入居者の身体状況や病気の進行に合わせて、都度説明をする事で方針の共有を図っている。又、家族からの要望に合わせて医療施設への転居先を探す事や情報提供が出来る様にしている。	「重度化した場合の対応に係る指針」で看取りの考えも説明し同意を得ている。食事が摂れない時も協力病院の主治医や看護師の点滴で対応している。看取りを希望する場合は入居時の文章で再確認し、対応の内容を口頭で説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導の応急救護講習を年1回行っている。又、系列のグループホームの応急救護講習にもなるべく参加を行い、反復して学ぶことで、急変時に慌てず、的確に対応できるように取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携を取りながら年2回以上(日中、夜間)を想定して避難訓練を行っている。地域参加型行事、運営推進会議を通して地域住民との協力体制が築けるように努めている。又、災害用の連絡網の整備、避難誘導方法の区分表の修正を毎月行い避難訓練以外での災害対策を行っている。	運営推進会議と同日に消防署の立会いで日中を想定した避難訓練を実施し、委員は誘導後の見守りで参加している。夜間を想定した自主訓練を利用者も参加して行っている。地震などを想定した訓練などは行っていない。	地震などの災害を想定し、避難場所や安全面を確認するとともに、各ケア別の対応についても職員間で話し合うことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けをする際には、声の掛け方、大きさ、トーン、表情に注意しながら入居者が不快な思いをしない様に羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けをしている。	4月には、法人の全事業所合同で接遇研修をしている。言葉かけをする時は、選択肢を増やすことで人格を尊重している。申し送りでは、個人を特定できないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動、おやつ、飲み物、衣類等を決める時には、なるべく本人に選んでもらうように支援している。自己決定が困難な方には、数種類の中から選んでもらうことやコミュニケーションをとることが困難方には表情や様子から本人の好まれるものを見つけていけるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンの把握に努め、思い思いに生活して頂けるように、活動内容や行う時間、入居者と話し合いながら決め、行動に迷いが見られる入居者の方には、本人のペースで出来るように見守りをしながら、必要な事を声掛け介助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や日々の衣類の組み合わせ等の工夫を入居者と一緒決めて個々におしゃれを楽しめるようにしている。外出、受診時には事前に衣類のシミやシワ、ほつれがないか確認して入居者と一緒に出用の衣類を決めている。			

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、配膳、盛り付け、食器洗いと個々に出来ることを職員と一緒にやっている。又、食事前にメニューの内容を伝えることや、調理をしている音や匂い、食事準備をしている様子を伝えることで、食べる前から食事を楽しみにしてもらえるように支援を行っている。	献立作成と食材配達は、業者に依頼している。本人の好物を購入し食卓に添えたり、誕生日には、家族と一緒に外食をしている。白玉団子などのおやつづくりや畑の収穫祭では、職員がポテトチップスや冷製スープをつくり、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を提供する際には、本人に飲みたい物や冷たい物、熱い物と好みを確認して一日の目標水分量が確保できるように努めている。食事が少ない際には、おやつを量を増やす事で栄養を確保できるように努めている。又体調不良者が居る際には、本人に確認しながら食事メニューを個別に変更して消化によい物を提供する事がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯ブラシやガーゼを使用しての口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つと共に口腔内の傷が無いか確認をしている。義歯を使用している人は、毎日夜間に消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認して入居者個々の排泄パターンを把握すると共に、表情や様子を観察しながらトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様に努めている。夜間帯は入床時間やトイレ間隔を確認しながらトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の介助を必要とする利用者は、排泄表を活用している。カンファレンスにて排泄の動作を検討し、本人のできること、できないことを明らかにし自立に向けた支援をしている。トイレで排泄することが難しかった利用者が間隔を把握することでトイレ使用が可能となったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には水分や牛乳を多めに促すと共に体操や階段の上り下り等の運動をしてなるべく自力での排便が出来るように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間をなるべく設定せずに入居者の好きなタイミングで入浴が出来るように支援している。又、清潔を維持出来る様に入浴表を確認しながら入浴の声掛けを行っている。	毎日、午前と午後に入浴できる体制を整えている。「午前と午後のどちらにしますか？」などと問いかけたり、「一番風呂に入りたい」という個々の意向に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りの際に夜間の入眠状況、入床、起床時間の確認を行い、睡眠不足の入居者に関しては、職員間で伝え合うことや日中の様子を観察しながら休息の提案をしている。休息時間が長いことで夜間眠れなくならないように、時間を見ながら離床の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服を行う際には、2人で確認を行い内服のミスを防ぐように支援している。又、入居者個々の内服内容を処方箋を確認しながら効能、副作用を把握すると共に、臨時薬に関しては、内服方法、内服時間、内服量、内服期間、効能、副作用を管理日誌、生活記録に記載する事で情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の活動では、入居者で話し合いながら決めて行っている。又、月に一度の行事を通して他のユニット入居者と外出や施設内行事を通して交流や気分転換が図れるように努めている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出を行なう際には、入居者と一緒に本人の行きたい場所を考え決めている。又、日常の会話の中で興味のある物を探し、外出の提案をしている。	近隣の住宅街を一周して散歩をしている。また、畑や花壇を見て回り、玄関前の椅子に座って外気浴をしている。隣接している同一法人のグループホームと合同で札幌ドームや平岡の梅林公園などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可を得て、買い物に行く際に、店内を一緒に歩きながら、欲しい物を選んでいただき、直接会計も本人にってもらう事でいつでもお金を使うことが出来る安心感につなげていける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より贈り物が届いた際には、お礼の電話の提案や、本人から希望がある際は、電話をかけることや手紙を送ることがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節ごとに飾り付けや絵を展示する事で季節感を感じて頂けるように取り組んでいる。又、各居室に温度・湿度計の設置や照明は暖色の物を使用して不快や混乱を招かないように取り組んでいる。	1階のAユニットは茶系を基調とする和風、2階のBユニットはオフホワイトを基調とする洋風の設えになっている。9室を3室ずつに区切り、各々一箇所の共有の洗面台とトイレを設置している。居間に面した窓から十分な日差しが入り、食堂のカウンターに加湿器を置き居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当りには、一人がけの椅子やソファが用意しており、居室以外で一人で過ごすことができる空間で思い思いに調理の音、他者の会話等の生活音を聞きながら過ごすことが出来るようになっていく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームに入居する前に使用していた家具を持ってきてもらい、住み慣れた環境になるべく近づけることが出来るようにしている。又、入居者個々に、家族の写真や、好きな動物のカレンダー、活動時に製作したものを飾りながら、居心地の良い空間作りを出来るように本人や家族と相談しながら行っている。	氏名を手書きした張り紙を居室入り口の張ったり、鈴を付けたりすることで混乱を防いでいる。筆筒や椅子、テーブル、テレビなどの使い慣れたものを置いている。退去者が使用していたベッドを引き続き利用する場合もある。引き戸と同色のクローゼットが備えられ、十分な収納力がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、入浴室には表札を用意して、一目でわかるようにする事で入居者の方は、自分の居室やトイレ、浴室に迷うことなく移動される。フロア内はバリアフリーになっており夜間は足元に注意が行くようにダウンライト、トイレ前にはスポットライトを使用して安全に移動が出来る様に工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	有限会社ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「A ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502405-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく生活が出来るようニーズを取り入れ、家庭的な雰囲気の中でその方の持っている力を最大限に生かせるよう、日々の申し送りやカンファレンスで具体的なケア統一について話し合い実践している。又、見やすい所にケア理念を掲示し、確認しやすいようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームで花火大会に参加して下さったり、防災訓練へ参加して下さったりしている。町内会のお祭りや盆踊りへ参加したり、小学校の子供110番にも加盟している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や勉強会を通じて、地域の高齢者や家族に役立てられるような情報交換の場として取り組みを行い、いつでも相談できるよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、町内会と家族へ手紙を郵送し、運営推進会議を開催している。グループホームでの取り組みや行事、日常の様子をお伝えすると共に、避難訓練の参加や振り返りの場として情報交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や区役所に、介護保険証の更新や研修、事故報告書や変更届を出したり、担当の方に事前に連絡をとり、書類の書き方や、表現や書式でわからないことを確認したり、アドバイスをいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、事業所内の勉強会で、身体拘束や高齢者虐待について学んでいる。その中で、グループワークも行い意見交換を行う場を作っている。又、身体拘束と高齢者虐待の定義をいつでも確認出来るように事業所内の壁に貼り、職員の理解を深め取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会や研修にて、高齢者虐待防止法について学び職員の理解を深めている。勉強会後も日頃のケアの振り返りを行い、不適切ケアについて話し合い、個人のケアに対する振り返りを行っている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会を持ち、職員の理解を深めるようにしている。必要な人には、制度を活用できるよう関係機関と支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院先や自宅・施設などに訪問したり、電話をかけたりにして、利用者や家族と十分に話し合いを行い、不安や疑問に努め、理解を得られるように取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見が得られる機会を作っている。また、利用者の言葉や様子、家族の面会などの意見にも耳を傾けて、運営に反映できるように努めている。又、要望などあれば連絡ノートを活用し統一したケアを行なっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理職の月例会議を行い、会議結果を議事録や申し送り・カンファレンスなどで伝えている。意見や提案などをその都度話し合い、次回の会議で議題として提案をし反映している。又、日頃から職員との会話を大事にし、意見の言いやすい関係づくりをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や技術・実績・資格などから、職員個人がやりがいをもち、働けるような労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状況や経験などを配慮して、職種別研修会へ選抜して参加促し、経験年数に合わせた研修内容で学んでいる。又、施設内の勉強会の司会・進行など活躍が出来る場を作り、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や区の管理者連絡会に出席し、他のグループホームとの情報交換や交流をはかっている。また、他の法人と合同で研修会を2カ月に1度開催し、学ぶ機会と経験をケアに活かせるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (Bユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接本人と話しをする機会を作り、不安ごとや心配な事・困っている事など本人自身から聞き、職員がすべきケアを職員間で統一している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問や電話をしたり、家族が抱えている問題や不安、要望などにも十分耳を傾け、事業としてどのような対応ができるか一緒に考え、家族が納得し、安心できる関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族がどのような支援を必要としているのか、状況を知る為情報シートを活用し、事前に記入してもらったり、話す機会を設け確認し、その利用者に応じたサービスが提供できるような取り組みを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを汲み取り、今までの生活と変わらないよう、一緒に家事やレクリエーションを行ったり、外出したり、お話ししたり、個々に合わせた関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を送り様子を伝えたり、面会時などに利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、情報を共有し共に本人を支えていく関係づくりに努めている。又、遠方の家族には電話を入れ様子をお伝えしたり、要望を聞いたりしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の面会時は、好きな場所でゆっくりと過ごし、継続的な交流ができるよう働きかけている。利用者の馴染みの場所である美容室やお盆には墓参りなどに行けるような支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分・感情で日々変化するので、余暇活動や手伝いの時間など、スタッフがさりげなく介入することで、利用者同士が関われるように配慮している。食席にも利用者が関われるように配慮している。			

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話があれば相談を受けたり、また必要に応じて情報を提供する姿勢を持ちながら、継続的な関わりが持てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを引き出せるよう、日々の関わりの中で今何がしたいのか確認するよう努めている。意思疎通が困難な方は表情やしぐさから思いを汲み取ったり、スタッフ同士の情報から思いを考えたり又、家族から情報を得て、本人主体のケアを行なうように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者から聞き取りをおこなったり、家族に生活歴など過去の情報を伝えてもらい、それをスタッフ間で共有し利用者一人ひとりを把握することで今後の関わりに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者や家族からこれまでの生活習慣の情報や日々の様子を記録に残しそこから、出来るだけ個々の状態に合わせるよう、一人ひとりの生活リズムを把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や思いを聞き取り介護計画書を作成し、家族に介護計画書の説明を行い、承諾を得てから、署名・捺印をいただいている。作成後はモニタリングを行いカンファレンスで話し合い行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを行なった場合、介護記録に記号を記入し、モニタリングの時に活用している。又、新たな気づきなど細かく記録に残しており、カンファレンスの場で情報を共有し意見交換しケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人からの要望もその都度対応を行うようにしている。又、日々変化するので、その時の状況に合わせ、対応出来るようにスタッフ間で話し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の盆踊りやお祭りにも参加したり、子供みこしがまわってきたりしている。又、夏祭りで、子供達と花火をしたり、近所の方と話す機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を受けているが、必要であれば他科の受診が出来るようにしている。その時に家族から以前に通ったことのある病院がないか確認してから、家族と一緒に病院を決めている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師の訪問があり、利用者の状態報告や相談が出来る体制がある。また、個々の「健康管理記録」で週1回看護師とのやり取りにて、医療面からのアドバイスなどもある。その他にも、クリニックの診察時間内であれば、電話相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中、病院に出向き、状態を実際に合って確認したり、付き添い家族や病棟の看護師からの情報収集も行っている。利用者の状態を踏まえたうえで、家族とも話し速やかな退院支援に結びつけられるよう、医師と家族が話し合いを行う際に同席させていただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に伴う意見確認を、本人や家族の思いを汲み取り、かかりつけ医や看護師・協力医療機関などと連携し、話し合いをしている。健康管理や今後の容態の経過や変化・注意点・急変時の対応など随時意見交換しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生は、全職員年に1回以上講習を受けている。避難訓練は、消防の方の指導の下実施し、学ぶ機会を作っている。また緊急対応の勉強会を行ったり、マニュアルをもとに、いざという時に対応が出来るよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路確保などの点検・避難訓練を、毎日点検表をつかい実施しており、利用者が安全に避難できる方法をみにつけるよう取り組んでいる。避難訓練は、日中・夜間を想定した訓練を年2回以上交互に行っている。又、地域の方と協力できるよう、避難訓練には地域の方の参加促している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の念をもち、本人の気持ちを大切に入浴やトイレ時、更衣時などプライバシーを損わないよう声掛けをするには、言われて嫌と思う事は言わないよう努めている。又、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に何がしたいのか、どうしたいのか、どちらがよいのかなど選択してもらえるような声掛けをしたりと自己決定できるよう働きかけている。又、家族にも本人が希望されていたことはないか確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを把握し、食事などその方に合わせた対応を心がけている。又、本人の様子をみながら希望を訪ねたり相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみは気を配り、定期的に床屋や美容室に出掛け希望に沿ったカットや毛染めをしている。又、どんな服が着たいか選択できるよう支援したり、化粧品も希望のもの購入している。又、食後服が汚れていたらすぐ取り替えるようにしている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方には、本人の好きな物を事前に聞き、補食として用意している。又、食事時に会話を作り、そこから好みの食べ物や味など聞いたりしている。又、一緒に食事作りや盛り付け、食後の片づけなど声掛けし一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がカロリー計算をしてメニューを立てており、栄養のバランスの摂れた食事を提供している。食事量を記録に残し、食事量が低下している方には、医師に相談し栄養補助ドリンクなど合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた歯磨きの促しや、介助を行ったり、就寝時に義歯洗浄剤に浸け、口腔内の清掃が保てるようにしている。また、痛みがないか口腔内の観察も行ったり、定期的に歯科検診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したり、尿意の訴えな困難な方も個々の排泄パターンや本人の行動を把握し、できるだけ失敗なく排泄できるように誘導している。又、下衣が下せる、ティッシュを渡すと拭かれるなど、できる事が維持出来るような声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、便秘予防のため普段から適度な水分を勧めたり、運動や腹部マッサージなど行い、自然排便を促したりしている。又、排便チェック表をつけ、それでも便秘の方は医師に相談し下剤を調整し内服している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する日や時間は、利用者の希望の沿って、相談しながらきめている。訴えが困難な方は、その方の様子を見ながら安心して、気持ち良く入浴できるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それまでの生活リズムを大事にしながら、本人が希望する時間に入所促し、ゆっくり休息が摂れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の情報が、個人ファイルに綴っており、薬効・副作用などをいつでも確認ができる。内服内容が変わった時は、記録や連絡ノートに記載し、スタッフ全員に周知し、状況の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前の情報や日常の関わりの中から一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、食事作りや縫い物、洗濯ものたたみなど本人ができる事を見つけ促したり、本人の好きな塗り絵やカードゲーム、トランプなど行っている。		

グループホーム こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日など利用者の状況や希望に合わせて、個々で外出したり、家族と一緒に出掛けられるような外出も企画したりしている。又、月に1度ずらん会にて、外出したり、他のフロアーの方と交流がもてる企画を考え行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、こちらで立替をし、支払いを行っているため、利用者の所有しているお金は預かっていない。しかし、お金を気にする方には、少額を所持してもらったりしている。又、希望で自販機にてジュースなど買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの贈り物や手紙が届いたりすると、お礼の手紙を書いたり、電話をしたりしている。又、家族へ電話したい時はいつでも掛けれるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中においても、季節感を感じられるよう季節に合わせて装飾や置き物など飾ったりと工夫を心掛けている。光もまぶしければカーテンを使用したり、時期により電気をつけるタイミングも考えている。又、安全、清潔を保つよう掃除や消毒を行ったり、温度や湿度にも気をつけている。冬は加湿器を使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外にソファや椅子を置き、落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。食堂では、利用者同士会話を楽しみ、くつろげる空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が昔から大事にしている物、使い慣れた寝具やタンス、写真など持ち込み、今までの習慣などを大切にしながら、心地よさに配慮しながら安心して生活できるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の中で利用者の残っている機能を活かせるよう、トイレや廊下には手すりが付いたり、利用者が使いやすい高さ・握りやすさで設定されていたりと工夫されている。又、居室には表札をつけたり、トイレにもトイレとわかるような表示をしたりしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム・ベル

作成日：平成 27年 3月 8日

市町村受理日：平成 27年 3月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者や家族の思いや願いは、生活記録や連絡ノートに残しているが、日数が経つにつれて見直しづらくなっている。	利用者や家族の思いや願いをスタッフ全員が周知できるよう又、見直ししやすいよう個人ノートを作成する。	各ユニットで、利用者や家族の思いや意向、願いなど個人で記入できるようノートを作成する。又、スタッフから見た気づきもノートに記入していく。	3か月
2	35	火災の避難訓練は行っていたが、水害や地震の避難訓練について、勉強会は行っていたが避難訓練は行っていない。	27年度に水害や地震を想定した避難訓練も行っていく。	3月の防災会議にて提案し、いつ、どのような内容で行っていくか検討していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。